

2026年10月

# アジア・パシフィック経済マンスリー

株式会社 第一ライフ資産運用経済研究所

経済調査部 主席エコノミスト

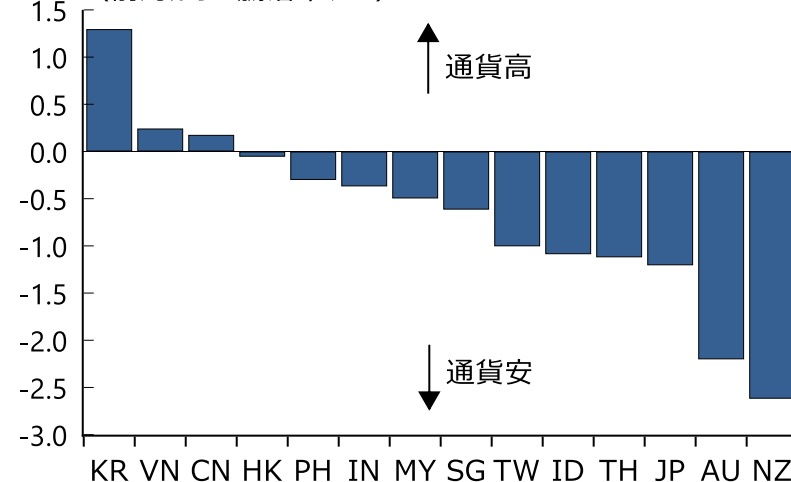
阿原 健一郎 (TEL: 050-5470-4868)

| 実質GDP（前年比、前期比年率、%）                                                                 |          |      |      |         |         |         |         | CPI（前年比、%） |         |         | 失業率（%）  |         |         |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------|------|------|---------|---------|---------|---------|------------|---------|---------|---------|---------|---------|
|                                                                                    |          | 2024 | 2025 | 2025 Q4 | 2026 Q1 | 2026 Q2 | 2026 Q3 | 2026 Q1    | 2026 Q2 | 2026 Q3 | 2026 Q1 | 2026 Q2 | 2026 Q3 |
|    | 中国       | 5.0  | 5.0  | 4.5     | 5.3     | 3.2     | 5.3     | 0.8        | 1.1     | 0.7     | 5.3     | 5.1     | 5.2     |
|    | インド      | 7.4  | 7.3  | 7.5     | 8.7     | 7.3     |         | 3.1        | 3.9     | 4.9     | 6.6     | 6.8     | 5.4     |
|    | 韓国       | 2.2  | 1.1  | -0.4    | 7.5     | 2.6     |         | 2.1        | 3.0     | 2.9     | 2.9     | 2.8     | 2.7     |
|                                                                                    | 台湾       | 5.3  | 8.8  | 28.7    | 10.2    | 5.7     |         | 1.2        | 2.2     | 2.4     | 3.3     | 3.3     |         |
|                                                                                    | 香港       | 2.6  | 3.6  | 4.3     | 12.1    | -2.5    |         | 1.6        | 1.9     |         | 3.8     | 3.7     |         |
|    | シンガポール   | 5.3  | 5.0  | 5.2     | 5.6     | 6.2     | 4.4     | 1.5        | 1.8     |         | 2.0     | 2.0     |         |
|    | インドネシア   | 5.0  | 5.1  | 5.4     | 5.4     | 5.2     |         | 3.9        | 2.9     | 3.1     | 4.7     | 4.7     |         |
|    | タイ       | 2.9  | 2.4  | 7.6     | 2.3     | -0.7    |         | -0.5       | 2.7     | 2.4     | 0.9     | 1.0     |         |
|   | フィリピン    | 5.7  | 4.4  | 3.0     | 3.7     | 2.3     |         | 2.8        | 6.8     | 6.5     | 5.3     | 4.8     |         |
|  | マレーシア    | 5.2  | 5.2  | 5.6     | -0.1    | 10.5    |         | 1.6        | 2.0     | 1.8     | 2.9     | 3.0     |         |
|  | ベトナム     | 7.0  | 8.0  | 30.4    | 26.6    |         |         | 3.1        | 4.8     | 4.4     | 2.2     | 2.2     | 2.2     |
|  | オーストラリア  | 1.1  | 2.0  | 3.7     | 1.1     | 1.7     |         | 4.1        | 3.9     |         | 4.2     | 4.4     | 4.6     |
|  | ニュージーランド | -0.2 | 0.7  | 1.4     | 4.3     | 1.4     |         | 3.1        | 4.1     |         | 5.7     | 5.4     |         |

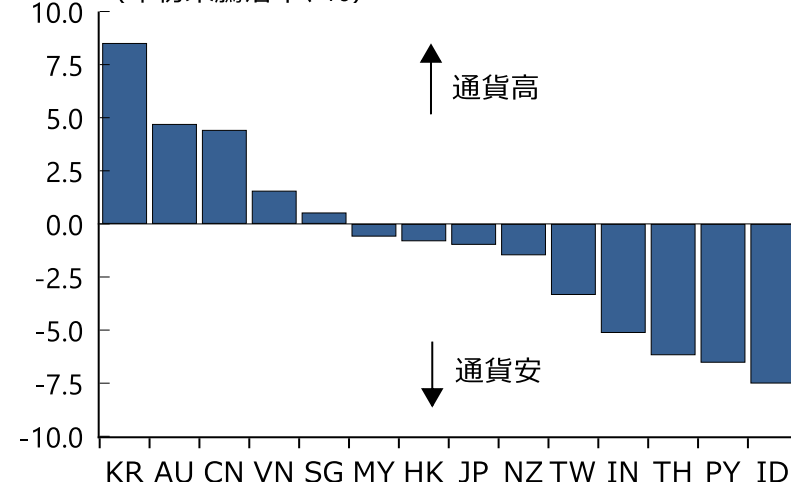
# 金融市場サマリー

## 為替

(前月からの騰落率、%)



(年初来騰落率、%)

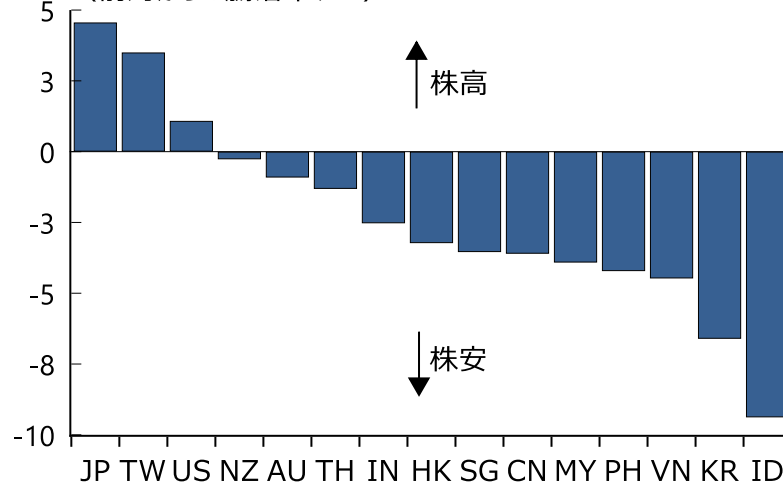


(注) 前月からの騰落率は26年9月平均と10/19日までの10月平均との比較、年初来騰落率は2025年終値と10/19日終値との比較。  
為替は対米ドルの名目為替レート、株価は各国の主要株価指数。各国コードは、AU＝オーストラリア、CN＝中国、HK＝香港、IN＝インド、ID＝インドネシア、JP＝日本、KR＝韓国、MY＝マレーシア、NZ＝ニュージーランド、PH＝フィリピン、SG＝シンガポール、TW＝台湾、TH＝タイ、US＝米国、VN＝ベトナム。

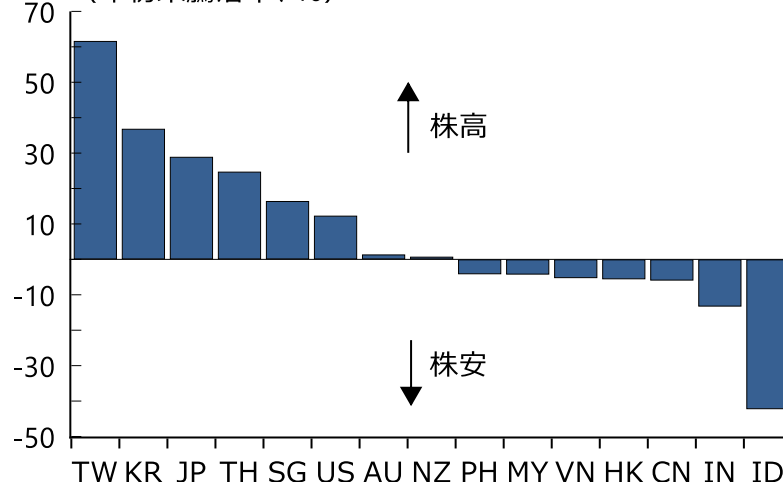
(出所) Macrobondより第一ライフ資産運用経済研究所作成

## 株価

(前月からの騰落率、%)

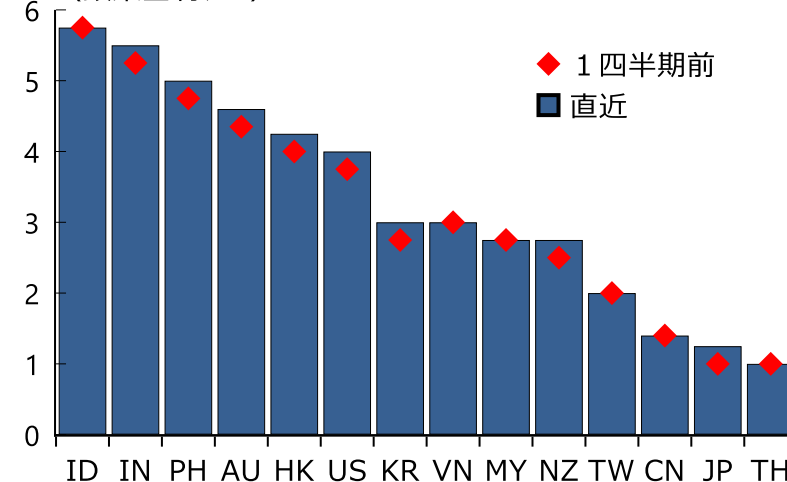


(年初来騰落率、%)



## 政策金利

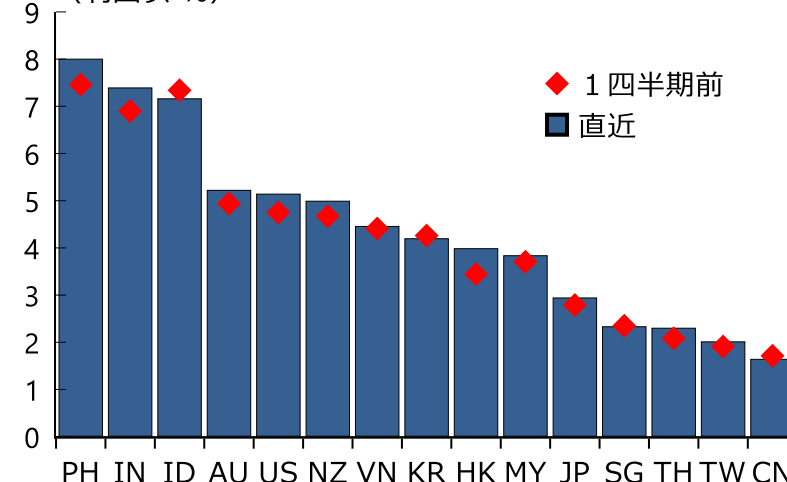
(政策金利、%)



(注) 直近は10/19日時点。

## 10年国債利回り

(利回り、%)



(注) 直近は10/19日時点。



# 中国

## ■ 製造業PMIは拡大ペースが加速

9月のRatingDog製造業PMIは52.1と、前月（51.5）から拡大ペースが加速。世界的なハイテク・AIインフラ需要を背景に電子機器などの新規受注が堅調に推移した。

## ■ インフレ率はわずかに加速

9月の総合CPIは前年比+0.9%と、前月（同+0.8%）からわずかに加速したもの、依然として低水準で推移。輸送費などが上昇した一方、豚肉価格を中心に食料価格が引き続き下落し、総合CPIの上昇を抑えた。

## ■ 消費は低位で推移

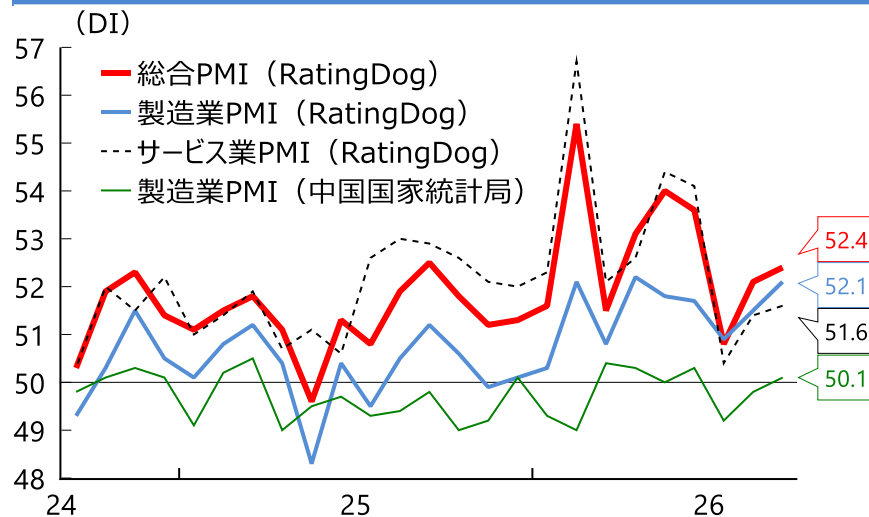
8月の小売売上高は前年比+0.4%にとどまり、消費の回復ペースが鈍化。8月の不動産販売面積は同▲13.0%と、依然として減少が続いており、不動産市況の低迷が長期化している。政府はリスク抑制のため未完成物件の事前販売規制を強化を打ち出している。

## ■ 輸出は増加幅が拡大

9月の輸出は前年比+36.3%と、前月（同+25.0%）から増加幅が拡大。世界的なAI投資の拡大を背景に、半導体などのハイテク製品や機械電気製品の出荷が引き続き増加した。

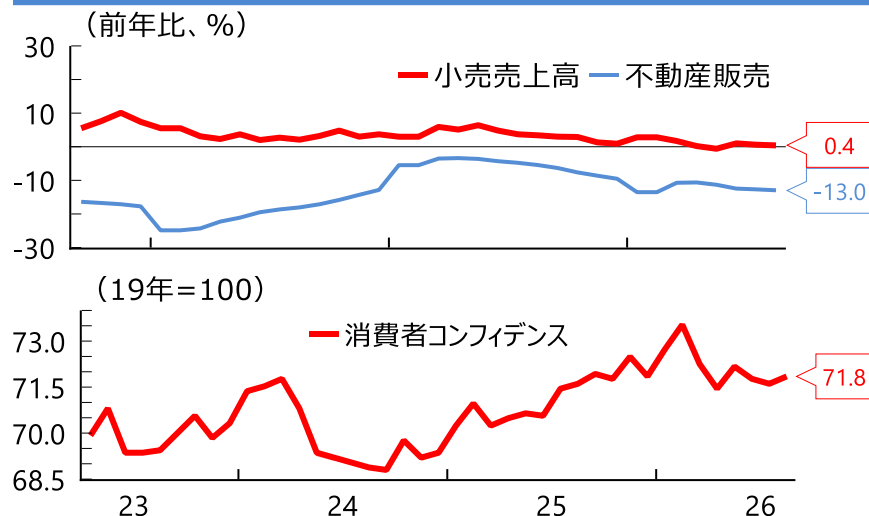
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



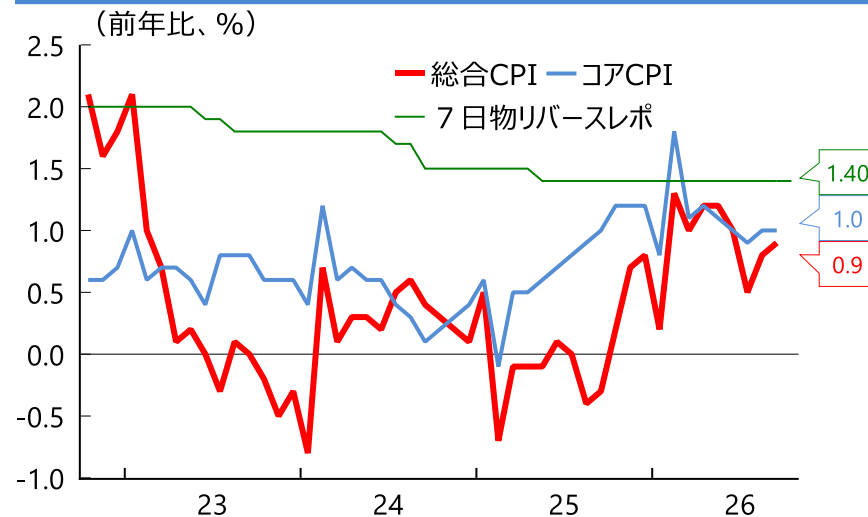
（注）直近は9月。

### 消費



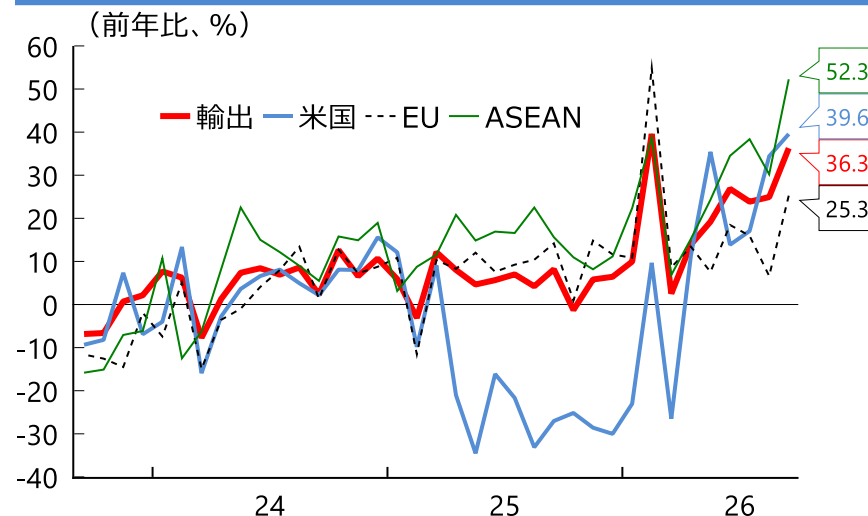
（注）直近は8月。不動産販売は面積ベース。

### インフレ率と主要政策金利



（注）直近は7日物リバースレポが10/19日、その他が9月。

### 輸出



（注）直近は9月（速報値）。米ドル建ての輸出額。



# インド

## ■ PMIは引き続き拡大

9月の総合PMIは55.9と、前月（54.3）から拡大ペースが加速。製造業PMI、サービス業PMIともに加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率は加速

9月の総合CPIは前年比+5.5%と、前月（同+4.8%）から加速。モンスーン期の局所的な豪雨や天候不順による生鮮野菜の供給減少が食料インフレを加速させた。

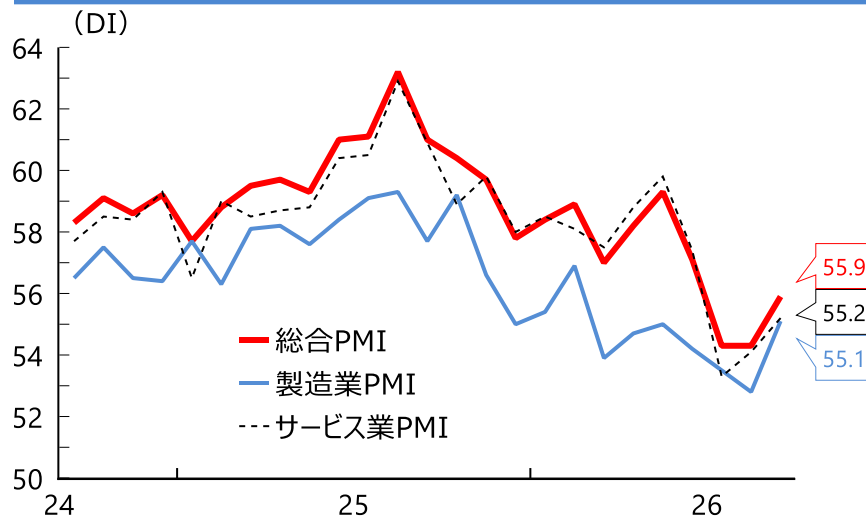
## ■ 自動車販売は引き続き増加

9月の自動車販売台数は前年比+31.8%と、前月（同+17.5%）に続き増加。昨年9月前半にGST（物品サービス税）減税発効前の買い控えがあったベース効果に加え、農村部の需要が回復したことで増加幅が拡大した。

## ■ 鉱工業生産は引き続き増加

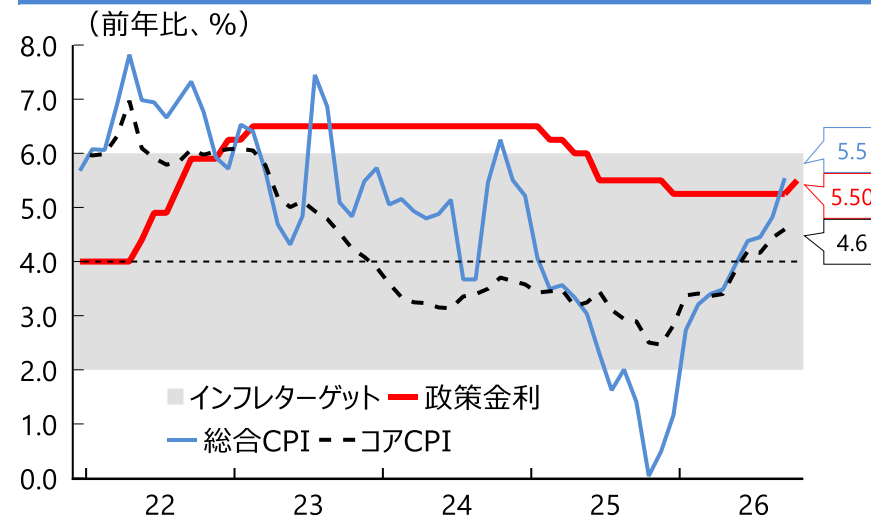
8月の鉱工業生産指数は前年比+8.0%と、前月（同+7.4%）から拡大ペースが加速。製造業部門や電力需要の力強い稼働が、降雨による鉱業部門の減速を補い、全体を大きく押し上げた。

### PMI



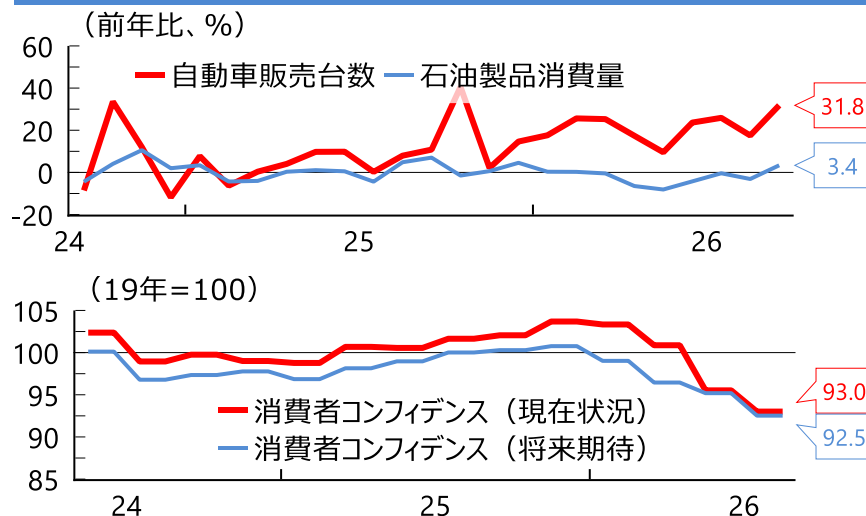
(注) 直近は9月。

### インフレ率と政策金利



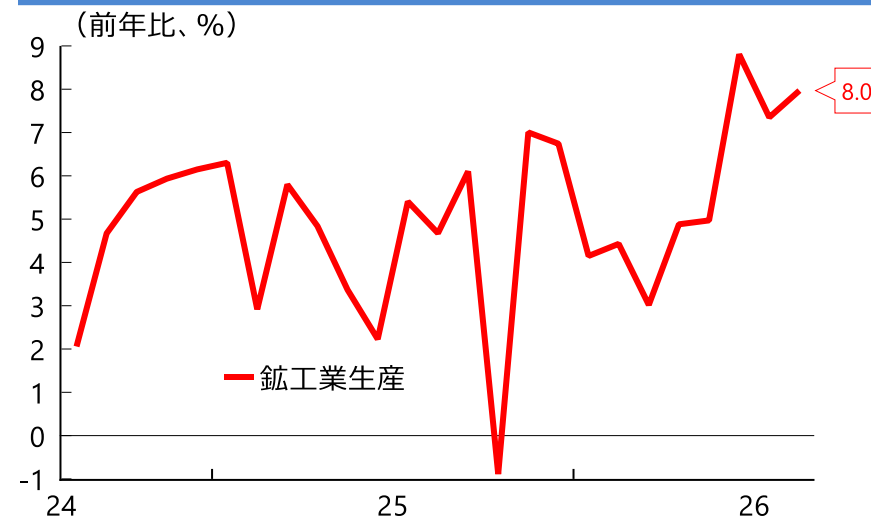
(注) 直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 消費



(注) 直近は9月。自動車販売台数は二輪車などを含む。

### 鉱工業生産



(注) 直近は8月。



# 韓国

## ■ PMIは拡大ペースが加速

9月の製造業PMIは53.9と、前月（52.3）から再び加速。AIインフラ向け半導体および電子部品の国内外からの新規受注が増加し、景況感が改善した。

## ■ インフレ率は幾分鈍化

9月の総合CPIは前年比+2.9%と、前月（同+3.1%）から幾分鈍化。引き続き輸送費が押し上げ要因となったものの、前月の携帯電話料金引き下げの裏要因が剥落し、総合CPIを押し下げた。

## ■ 消費は前月比で減少

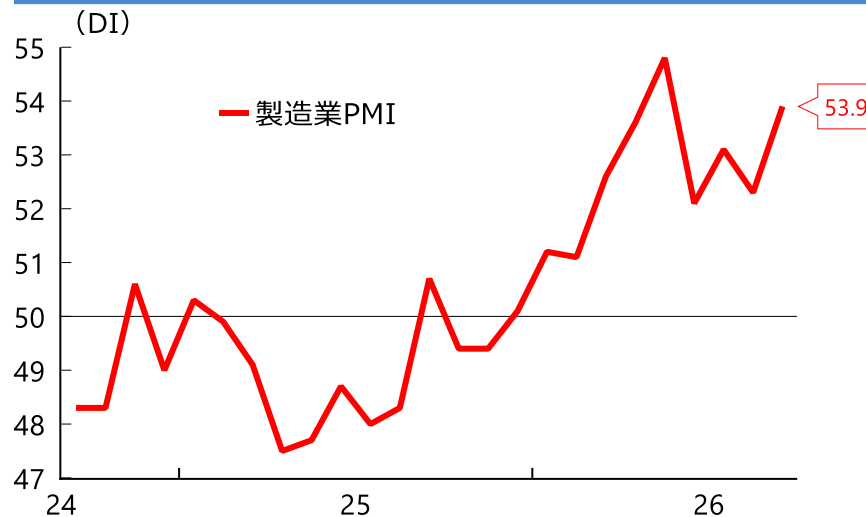
8月の小売売上高は前期比▲1.8%と、前月（同▲2.4%）に続き減少。猛暑や物価、高金利上昇による実質可処分所得の圧迫を受け、前月比で減少基調が継続。高額耐久財や衣服などの裁量的消費において家計の節約志向が意識されている。

## ■ 輸出は引き続き増加

9月の輸出は前年比+83.7%と引き続き増加。世界的なAI設備投資の拡大により、半導体輸出が同+262.8%と、前月（同+209.1%）に続き驚異的な伸びを示し、輸出全体を牽引した。

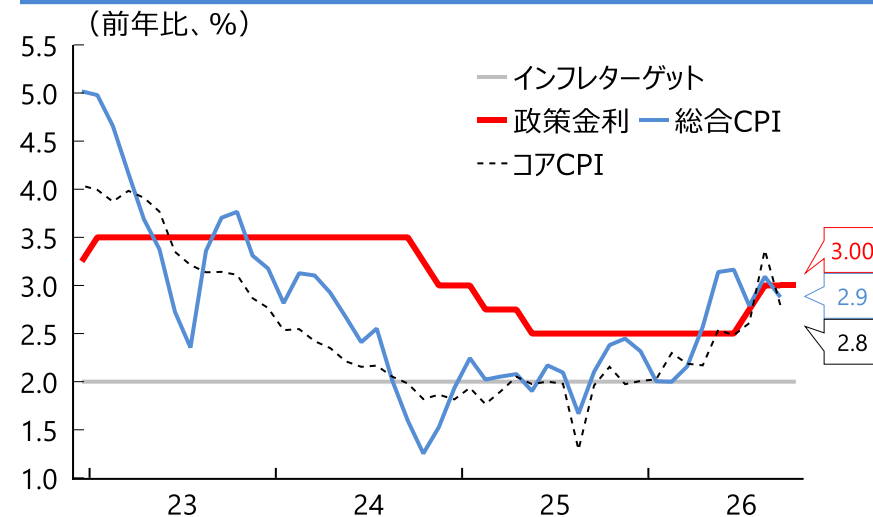
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



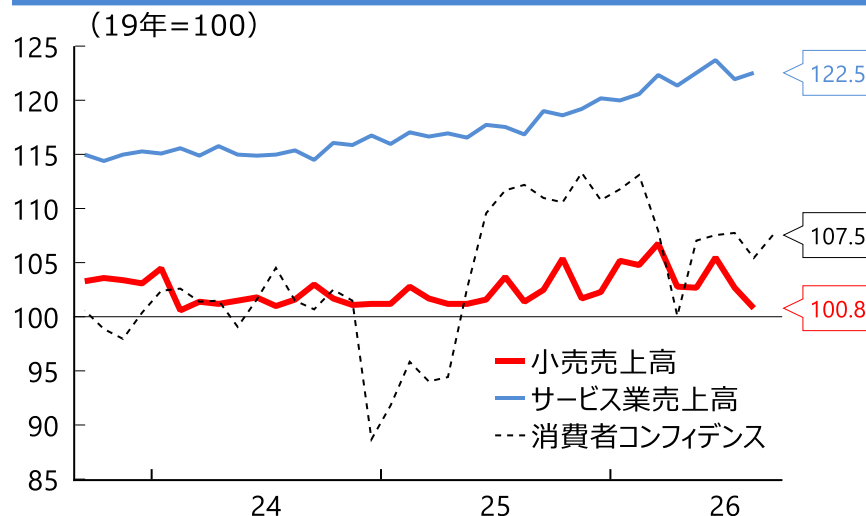
（注）直近は9月。

### インフレ率と政策金利



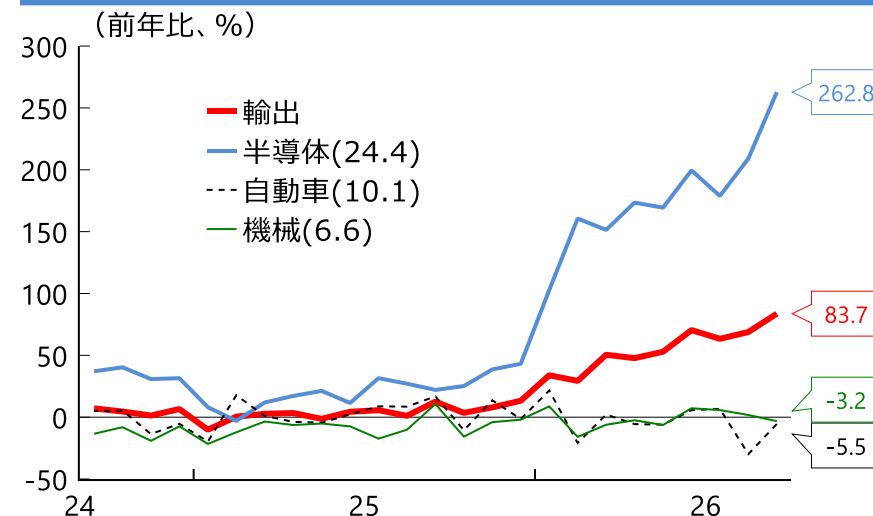
（注）直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 消費



（注）直近は消費者コンフィデンスが9月、その他が8月。

### 輸出



（注）直近は9月。米ドル建ての輸出額。（）内は25年輸出額に占める割合。

## ■ PMIは拡大ペースが加速

9月の製造業PMIは63.4と、前月（62.5）から拡大ペースが加速。エレクトロニクス部門が62.6と、新規受注指数の急低下で前月（65.2）からヘッドラインが鈍化したものの、基礎原材料や化学・バイオ医療などその他部門の拡大ペースが加速した。

## ■ インフレ率は加速

9月の総合CPIは前年比+2.7%と、前月（同+2.1%）から加速。食料価格の寄与が縮小し、総合CPIを押し下げた。台湾中央銀行は物価安定と景気拡大のバランスを考慮し、政策金利を据え置いている。

## ■ 消費は引き続き拡大

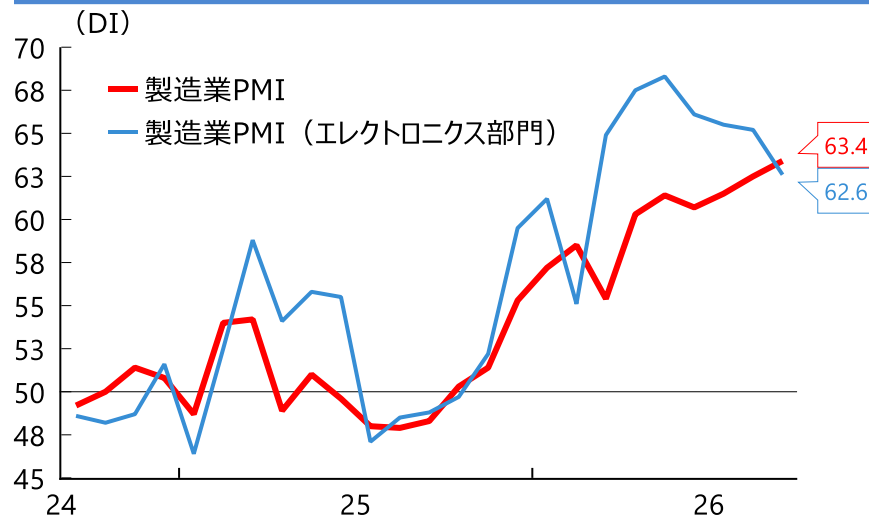
8月の実質小売売上高は前年比+4.8%と、前月（同+5.2%）に続き拡大。季節商戦や新型スマートフォンの発売等が重なり、堅調に推移した。

## ■ 輸出受注は引き続き増加

8月の輸出受注は前年比+71.4%と、前月（同+61.9%）から増加幅が拡大。AI・高性能コンピューティング需要を背景に、情報通信機器や電子部品の受注が引き続き増加した。

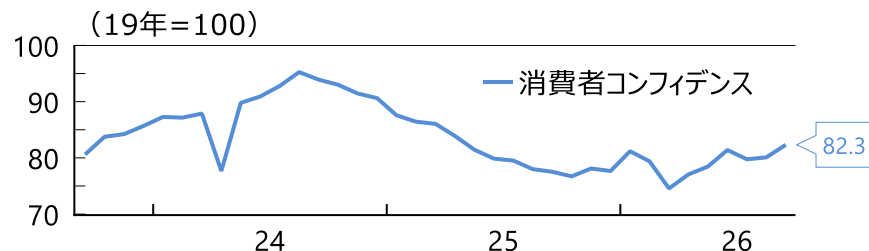
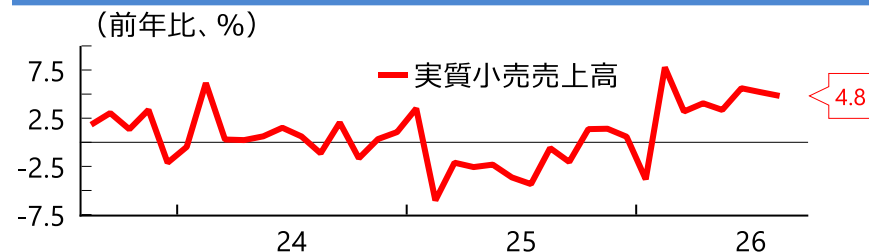
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



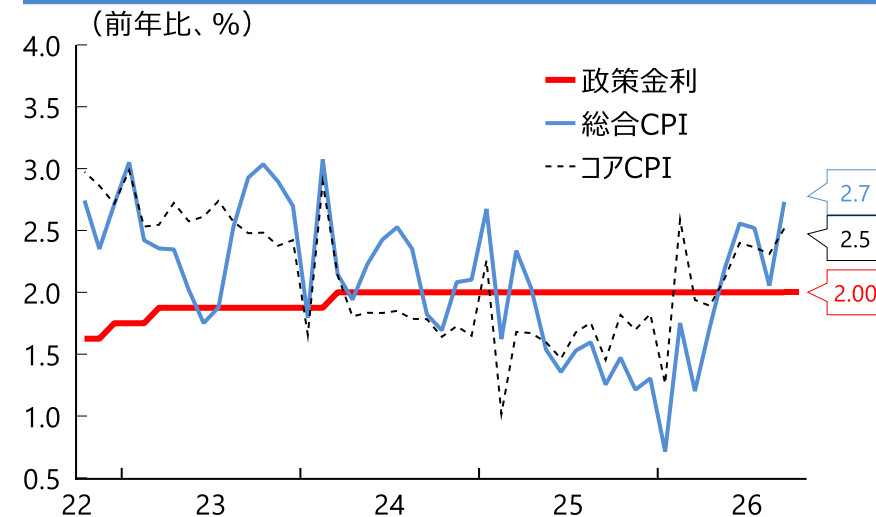
（注）直近は9月。国家発展委員会の公表値。

### 国内消費



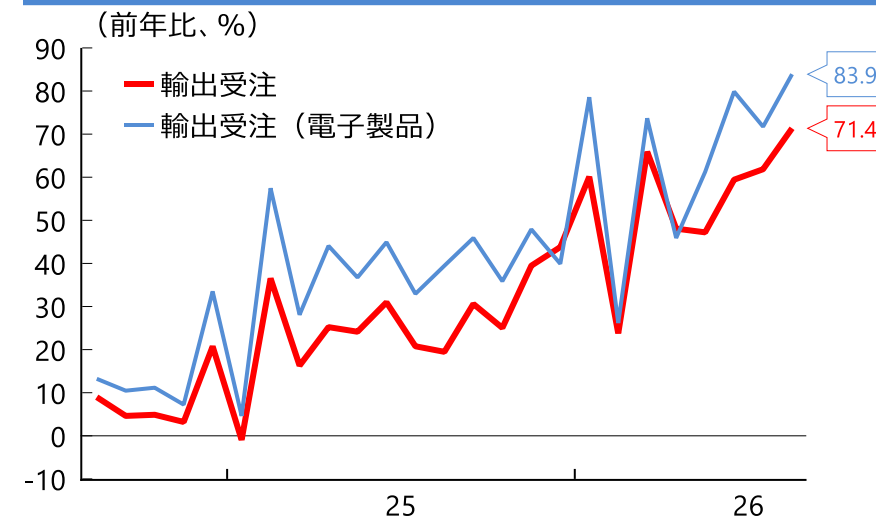
（注）直近は実質小売売上高が8月、消費者コンフィデンスが9月。

### インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 輸出受注



（注）直近は8月。米ドル建ての輸出受注額。

## ■ PMIは引き続き縮小

9月の総合PMIは49.2と、前月（49.5）から縮小ペースが加速。地政学的リスクに伴う物流コストの上昇や、中国本土・域内の需要鈍化が民間企業の景況感を下押しした。

## ■ インフレ率は横ばいで推移

8月の総合CPIは前年比+1.7%と、前月（同+1.7%）から横ばいで推移。

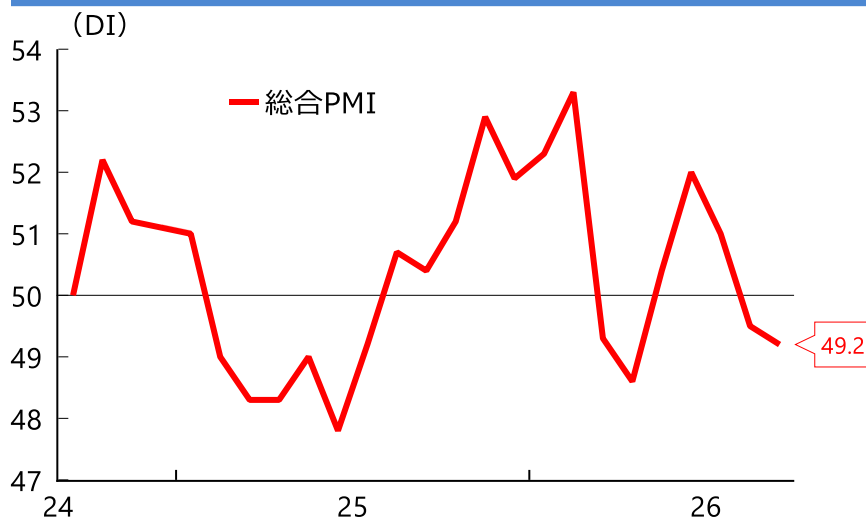
## ■ 消費は緩やかに増加

8月の実質小売売上高は前年比+2.8%と、前月（同+2.4%）から緩やかに増加。週末を中心に香港住民が深センなど中国本土へ越境して買い物を行う「北上消費」の定着により、域内の百貨店や外食チェーンの売上が伸び悩んだ。

## ■ 輸出は引き続き増加

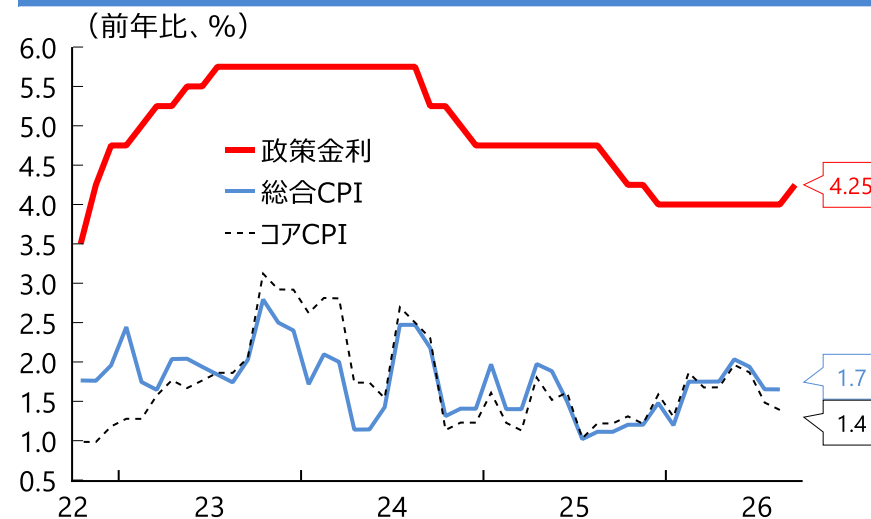
8月の輸出量は前年比+28.6%と、前月（同+31.7%）に続き増加。中国本土を経由する先端半導体およびAI関連ハイテク部材の荷動きが活発だったことにより、前年比で底堅いプラス成長を維持した。

### PMI



（注）直近は9月。

### インフレ率と政策金利



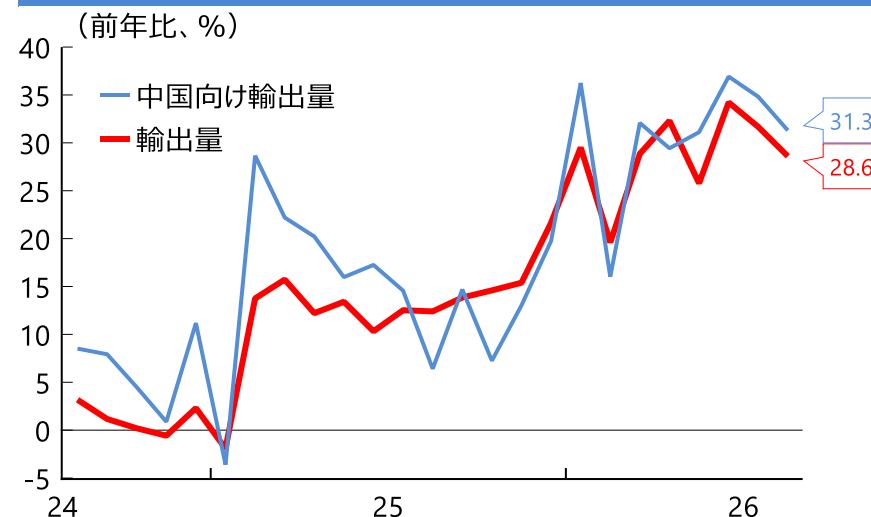
（注）直近は政策金利が10/19日、その他が8月。

### 国内消費



（注）直近は8月。

### 輸出



（注）直近は8月。再輸出を含む輸出量の指数。



# シンガポール

## ■ PMIは引き続き拡大

9月の製造業PMIは51.7と、前月（51.5）に続き拡大。AIサーバーおよび先端半導体の旺盛な需要を背景に、エレクトロニクス部門が拡大を続け、製造業PMI全体を押し上げた。

## ■ MASはサプライズの据え置き

10月14日、シンガポール通貨金融庁（MAS）は政策為替レートS\$NEERの誘導目標を据え置き。据え置きはサプライズ。市場は堅調な経済成長とインフレリスクから追加の金融引き締めを実施すると見ていた。MASはAI投資のブームと供給制約が緩和し、経済成長とインフレ率が鈍化する見通しを示した。

## ■ 消費は増加幅が縮小

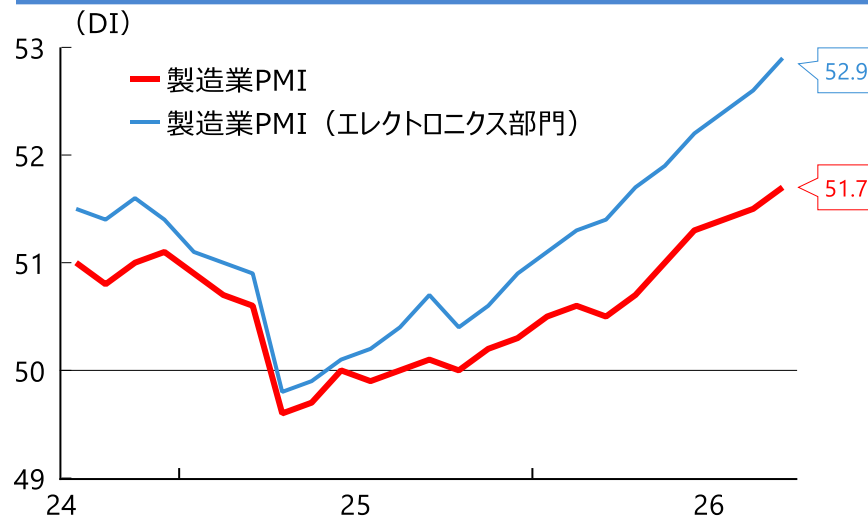
8月の実質小売売上高は前年比+0.7%と、前月（同+1.3%）から増加幅が縮小。8月の自動車登録台数も同▲1.4%と、前月（同+7.0%）から減少に転じた。

## ■ 輸出は増加幅が拡大

9月の実質輸出額は前年比+19.8%と、前月（同+9.4%）から増加幅が拡大。AI関連の電子製品（ICチップ等）が驚異的な伸びを示し、主要市場向けが全面的に拡大した。

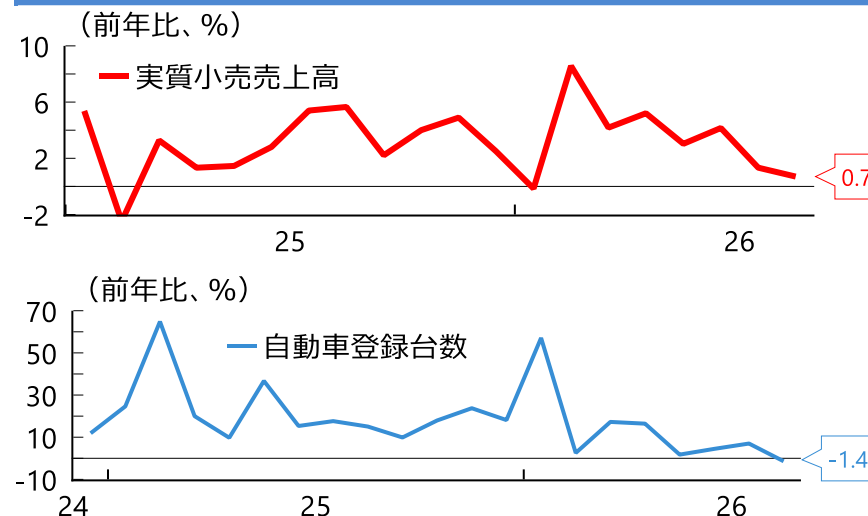
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



（注）直近は9月。シンガポール購買・原料管理研究所の公表値。

### 国内消費



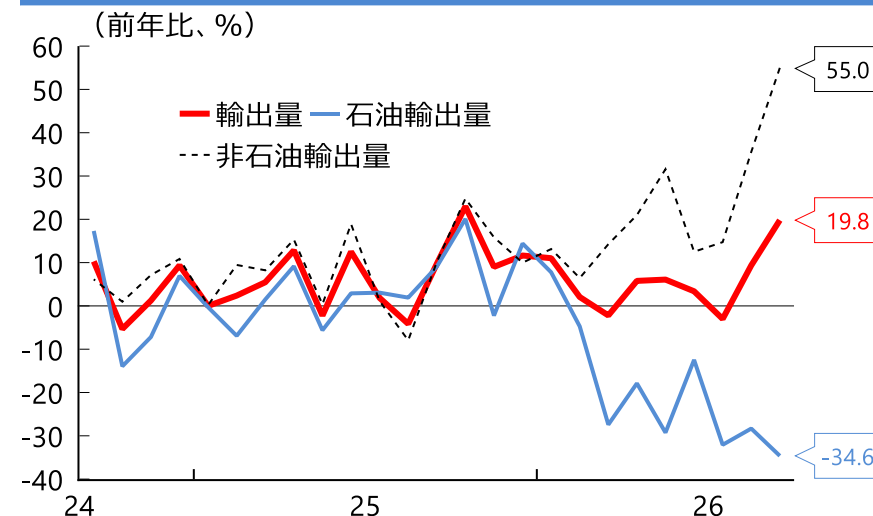
（注）直近は8月。

### 政策為替レート



（注）直近は10/9日の週。破線は直近2回の政策決定タイミング。

### 輸出



（注）直近は9月。再輸出を除いた地場輸出の実質輸出額。



# インドネシア

## ■ PMIは拡大に転じる

9月の製造業PMIは52.4と、前月（49.8）再び拡大に転じた。国内プロジェクトの進展や新規受注の回復が生産活動を力強く押し上げた。

## ■ インフレ率はわずかに加速

9月の総合CPIは前年比+3.3%と、前月（同+3.2%）からわずかに加速。一部の食料価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。コアCPIは同+2.8%と、前月（同+2.9%）からわずかに鈍化。いずれもインフレ目標のレンジ内に収まって推移している。

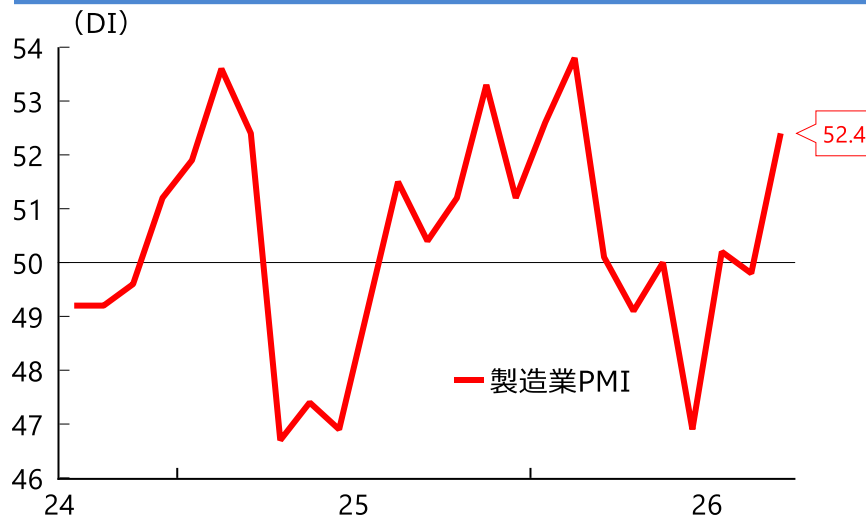
## ■ 消費は引き続き増加

8月の小売売上高は前年比+1.3%と、前月（同+1.2%）に続き増加。9月の中銀予測値は同+1.4%と、引き続き緩やかに増加する見通し。

## ■ 輸出は引き続き増加

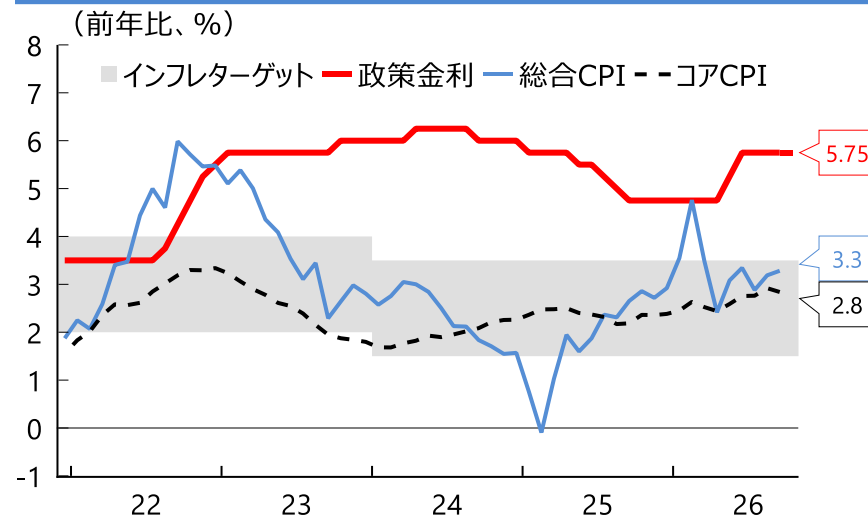
8月の輸出は前年比+6.7%と、前月（同+6.0%）に続き増加。ニッケルおよびその派生・加工品の輸出が増加し、輸出全体を牽引した。

### PMI



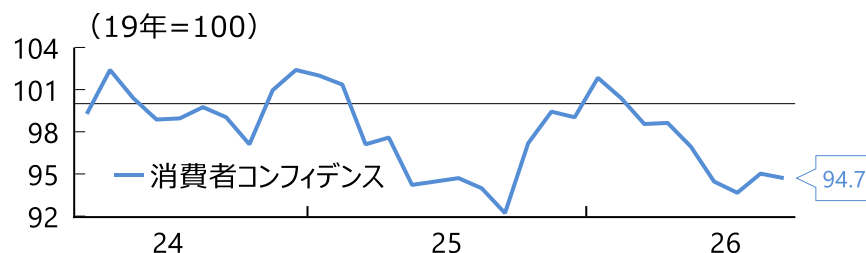
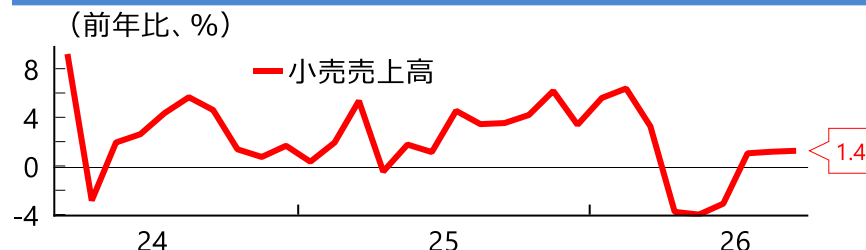
(注) 直近は9月。

### インフレ率と政策金利



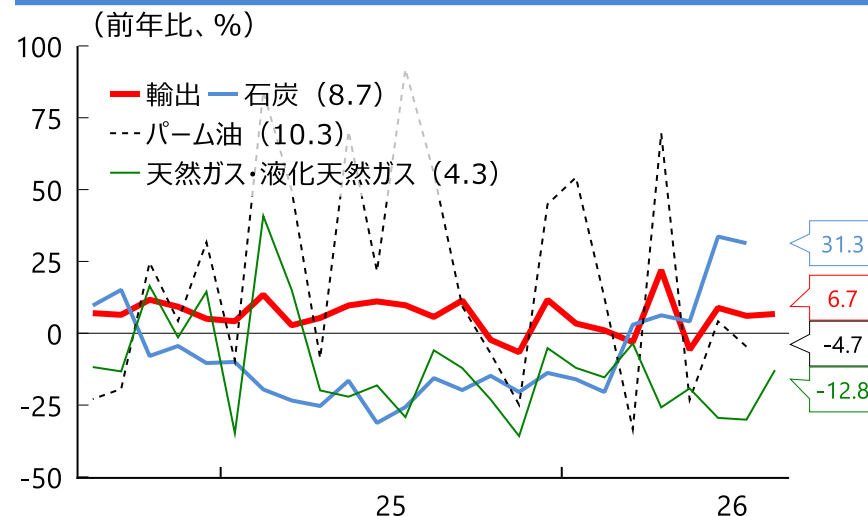
(注) 直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 国内消費



(注) 直近は9月。小売売上高の直近値は中銀予測値。

### 輸出



(注) 直近は石炭、パーム油が7月、その他は8月。()内は25年輸出額に占める割合。



# タイ

## ■ PMIは引き続き拡大

9月の製造業PMIは54.3と、前月（53.8）に続き拡大。内需向け加工産業などを中心に、生産指数と新規受注指数の拡大ペースが加速し、ヘッドラインを押し上げた。

## ■ インフレ率は加速

9月の総合CPIは前年比+2.8%と、前月（同+2.5%）から伸びが加速。原油高に伴う燃料費や加工食品の価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。

## ■ 消費は引き続き減少

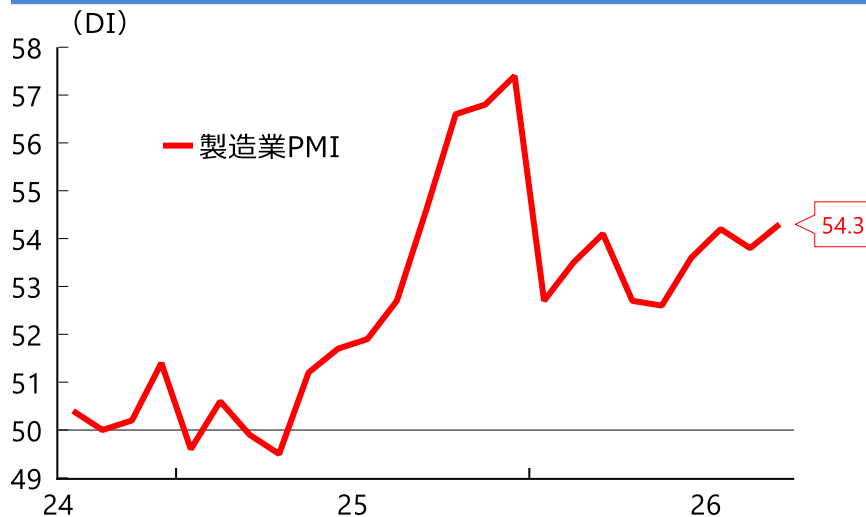
7月の小売売上高は前年比▲11.9%と、前月（同▲18.2%）に続き減少。前年の裏要因に加え、エネルギー価格の上昇など家計負担の増加から、百貨店等の売上げが減少した。一方、8月の新車販売台数は同+25.6%と6か月連続で増加した。エコカー減税策やEV・ハイブリッド車の普及が販売を牽引した。

## ■ 観光客数は減少

9月単月は約200万人、前年比▲10.5%と減少。中国からの観光客が同+8.7%と、前月に続き増加したものの、ASEAN諸国が同▲27.4%と、前月（同▲12.9%）から減少幅が拡大した。

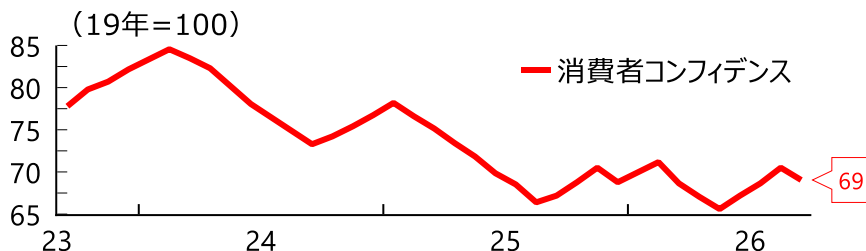
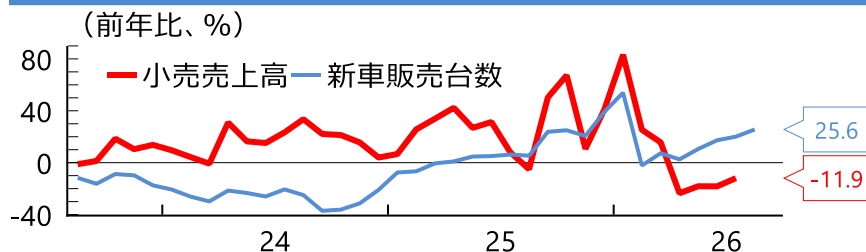
（出所）Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



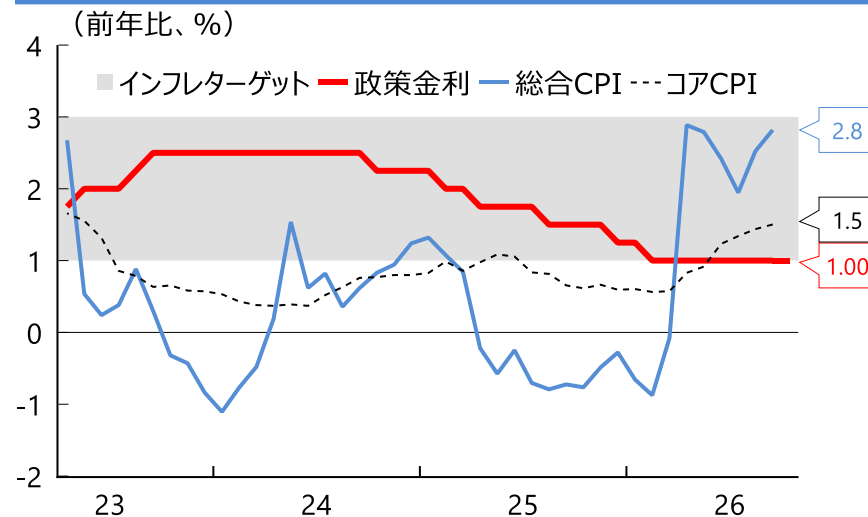
（注）直近は9月。

### 国内消費



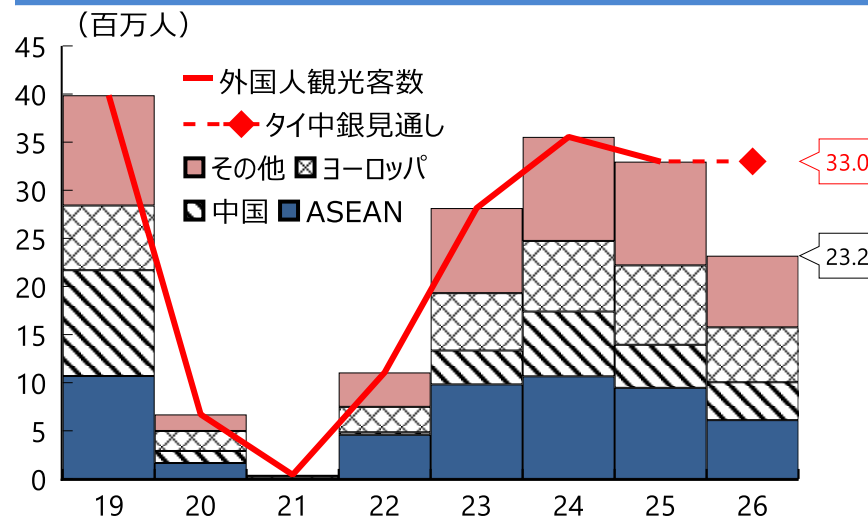
（注）直近は小売売上高が7月、新車販売台数が8月、消費者コンフィデンスが9月。

### インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 外国人観光客数



（注）26年は9月時点実績。



# フィリピン

## ■ PMIは縮小に転じる

9月の製造業PMIは49.6と、前月（54.9）から大きく悪化し、縮小に転じた。原材料コストの上昇や悪天候に伴う生産遅延、国内外からの新規受注の一服が影響した。

## ■ インフレ率は天候不順で再び加速

9月の総合インフレ率は、前年比+7.2%と、前月（同+6.1%）から再び加速。モンスーンによる豪雨と台風の複合的な被害により農産物の供給が減少、食料を中心に総合CPIを押し上げた。コアCPIとともに、引き続きインフレ目標の範囲を上回って推移している。

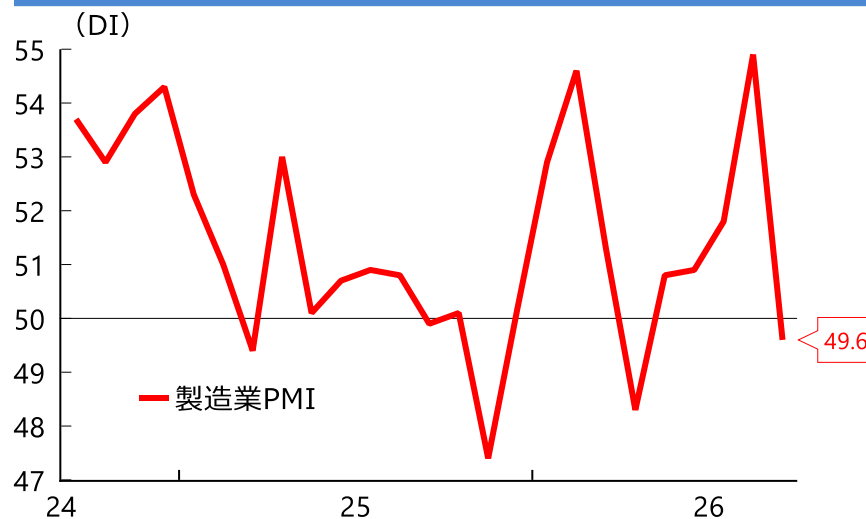
## ■ 新車販売台数は減少幅が拡大

8月の新車販売台数は前年比▲18.1%と、前月（同▲2.5%）から減少幅が拡大。自動車ローン金利の上昇が、家計の購入意欲を冷え込ませた。

## ■ 輸出は増加幅が拡大

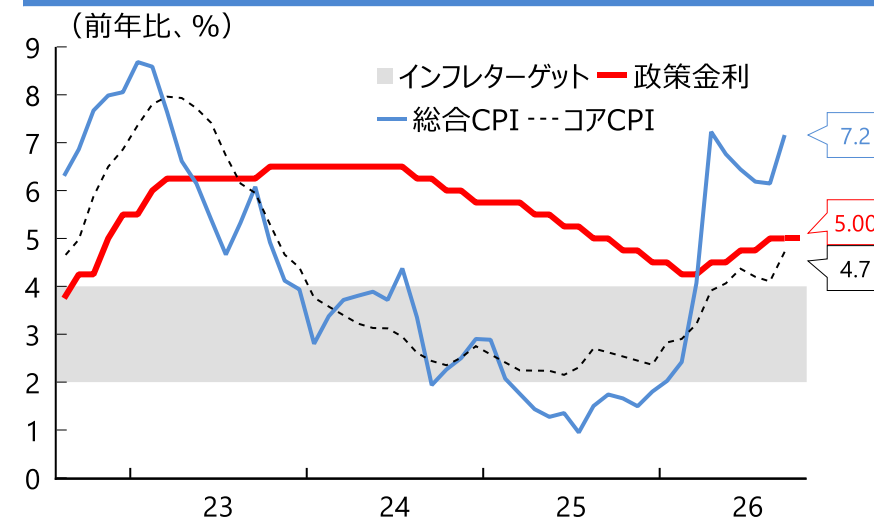
8月の輸出は前年比+27.8%と、前月（同+10.9%）から増加幅が拡大。世界的な半導体・電子部品サイクルの需要を背景に、主力の集積回路などの出荷が大幅に増加した。

### PMI



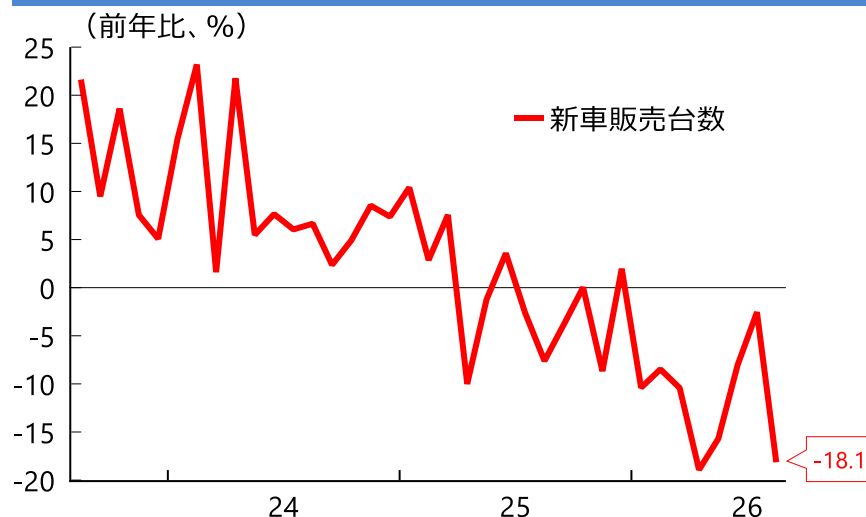
(注) 直近は9月。

### インフレ率と政策金利



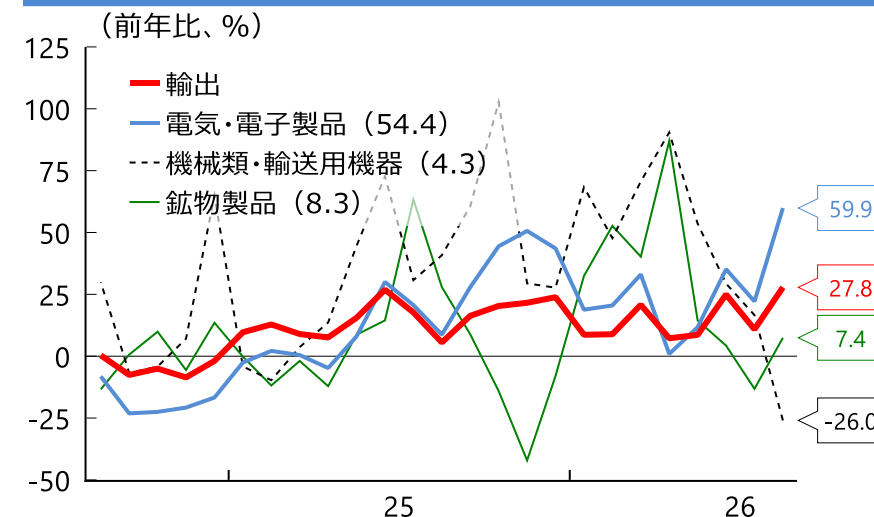
(注) 直近は政策金利が10/19日、その他が9月。

### 国内消費



(注) 直近は8月。

### 輸出



(注) 直近は8月。()内は25年輸出額に占める割合。



## ■ PMIは縮小に転じる

9月の製造業PMIは49.9と、前月（50.2）から縮小に転じた。生産量や新規受注の伸びが一服し、好不況の節目である50をわずかに下回った。

## ■ インフレ率はわずかに鈍化

9月の総合CPIは前年比+1.8%と、前月（同+1.9%）からわずかに鈍化。引き続き、ディーゼル燃料補助金の見直しに伴う輸送コストの上昇等が総合CPIを押し上げた。

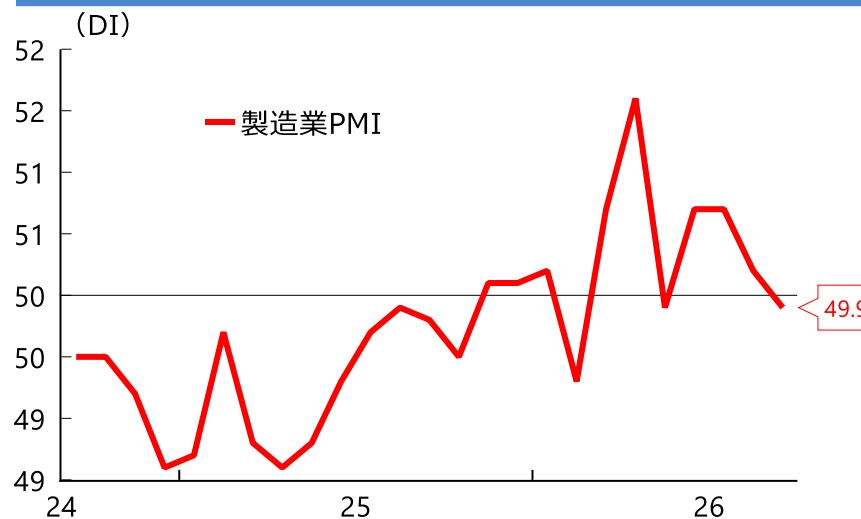
## ■ 消費は引き続き増加

8月の小売売上高は前年比+3.8%と、前月（同+4.1%）に続き増加。7月の新車販売台数は同+5.1%と、前月（+23.8）から増加幅は縮小したものの、増加を維持した。

## ■ 輸出は増加幅が拡大

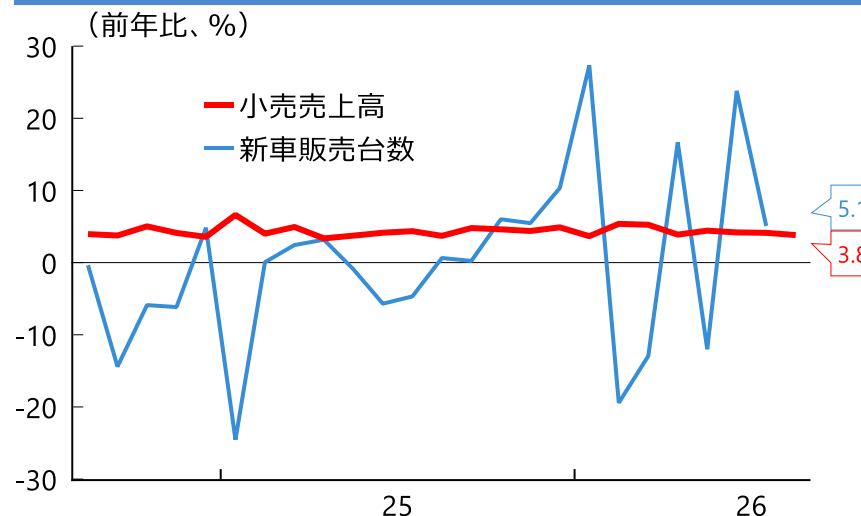
9月の輸出は前年比+54.5%と、前月（同+45.5%）から増加幅が拡大。半導体、電気・電子機器の輸出が米国やアジア向けに増加し、輸出を支えた。

### PMI



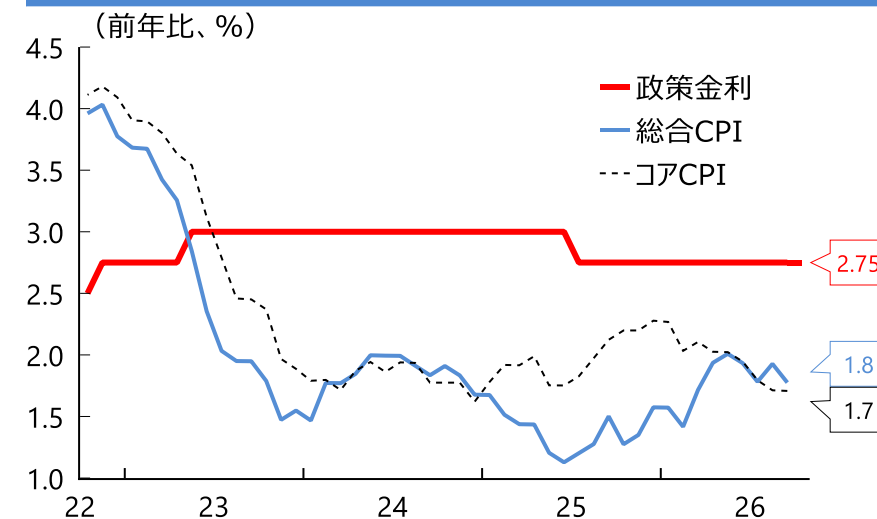
（注）直近は9月。

### 国内消費



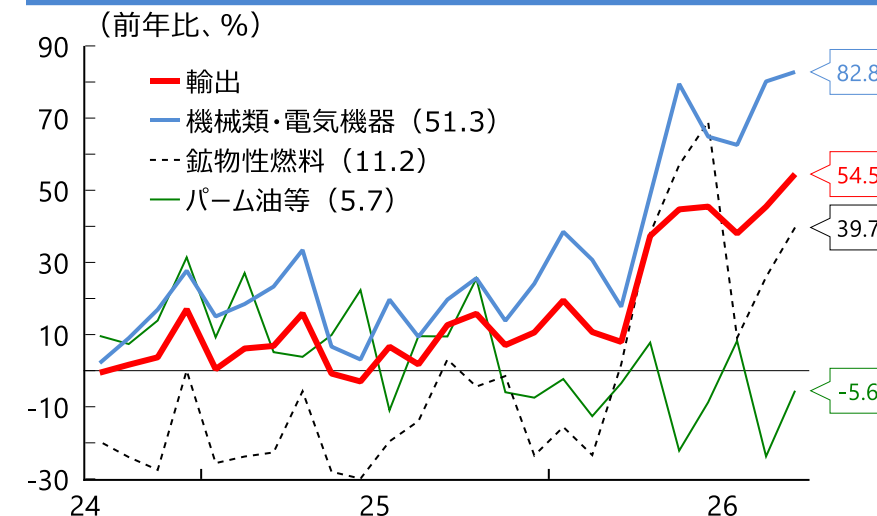
（注）直近は小売売上高が8月、新車販売台数が7月。

### インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が10/19日、その他が8月。

### 輸出



（注）直近は9月。現地通貨建ての輸出額。（）内は25年輸出額に占める割合。12



# ベトナム

## ■ PMIは拡大ペースが鈍化

9月の製造業PMIは51.9と、前月（53.3）から拡大ペースが鈍化。新規受注の増加が続いたが、台風被害による一時的な供給網の混乱が指数の伸びを抑制した。

## ■ インフレ率は加速

9月の総合CPIは前年比+5.1%と、前月（同+4.9%）から加速。燃料価格の引き上げに伴う輸送費の急伸や医療関連費の上昇が総合CPIを押し上げた。

## ■ 消費は引き続き増加

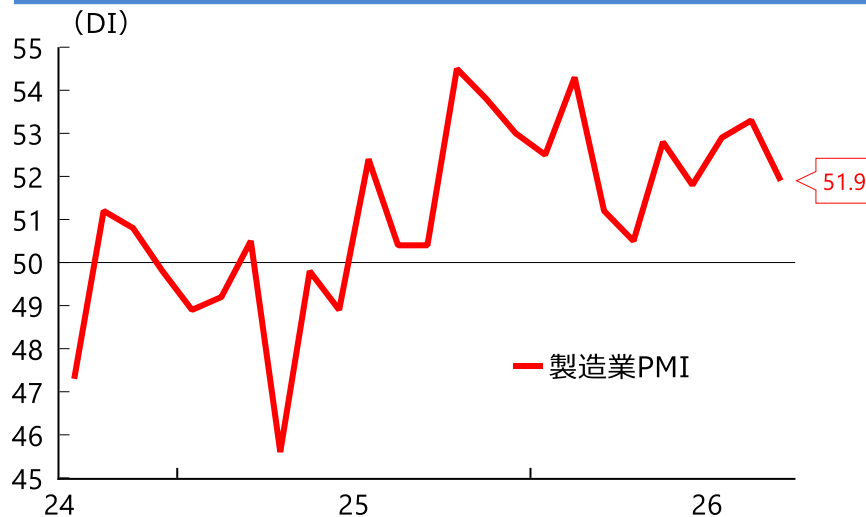
8月の小売売上高は前年比+15.7%と、前月（同+16.7%）に続き増加。観光関連や宿泊・飲食サービスを中心に増加した。9月の当局予測値は同+15.7%と、引き続き増加する見通し。9月の新車販売台数は同▲0.3%と、前月（同▲12.9%）から減少幅は縮小。年末商戦に向けた新型モデルの投入やディーラーの販促キャンペーンにより前月から持ち直しの動きが見られた。

## ■ 輸出は増加幅が拡大

9月の輸出は前年比+46.8%と、前月（同+29.5%）から増加幅が拡大。コンピューター、各種電子部品の出荷が輸出を牽引した。

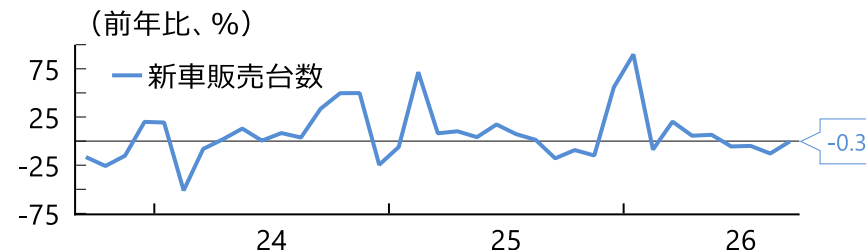
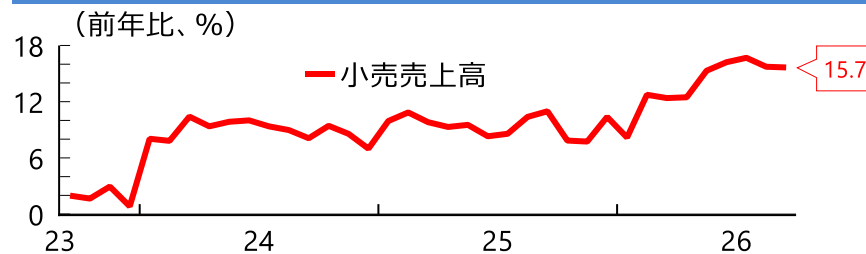
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



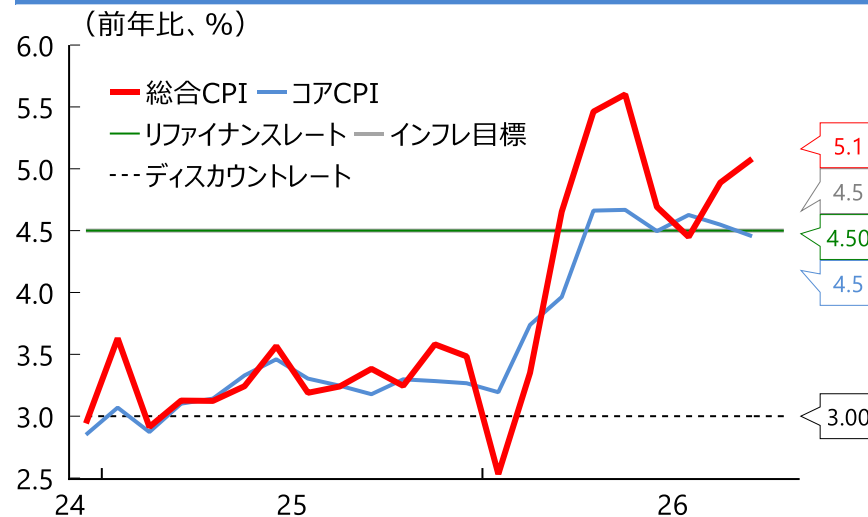
（注）直近は9月。

### 国内消費



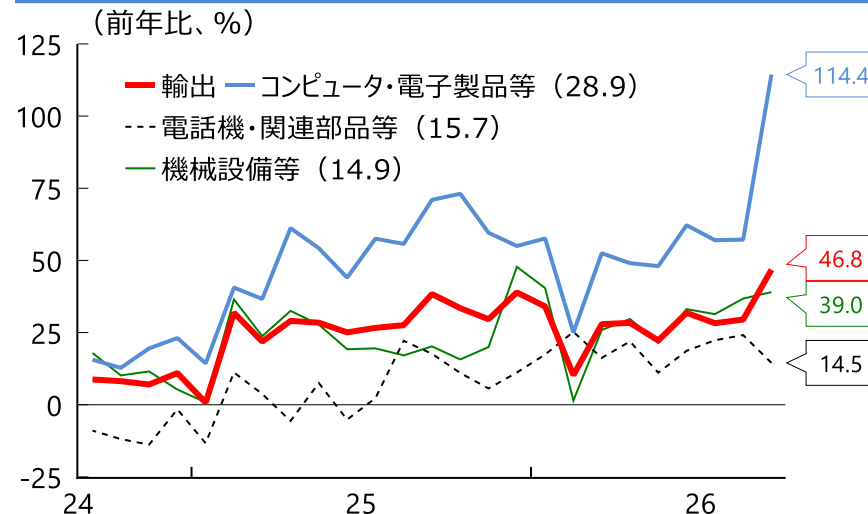
（注）直近は9月。小売売上高の直近値は当局予測値。

### インフレ率と政策金利



（注）直近はリファイナンスレート、ディスカウントレートが10/19日、その他が9月。

### 輸出



（注）直近は9月。米ドル建ての輸出額。（）内は25年輸出額に占める割合。



# オーストラリア

## ■ PMIは拡大ペースが鈍化

9月の総合PMIは51.3と、前月（52.7）から拡大ペースが鈍化。製造業PMIは49.6と、前月（52.0）から悪化し、縮小に転じた。生産指数が縮小するもと、新規受注指数が縮小に転じ、ヘッドラインを押し下げた。

## ■ RBAはインフレ抑制の利上げ

8月の総合CPIは前年比+4.0%と、前月（同+3.5%）から加速。基調的な物価を示すトリム平均CPIも同3.6%と、引き続きインフレ目標の範囲を上回って推移している。

9月29日、RBAは利上げ（+25bps、4.35%→4.60%）を決定。利上げは市場予想通り。声明文では、既往の利上げの効果に言及しつつも、「インフレ率は依然として高水準であり、インフレ率を妥当な期間内に目標水準に戻すためには、金融環境のさらなる引き締めが必要である」とした。

## ■ 消費は横ばいで推移

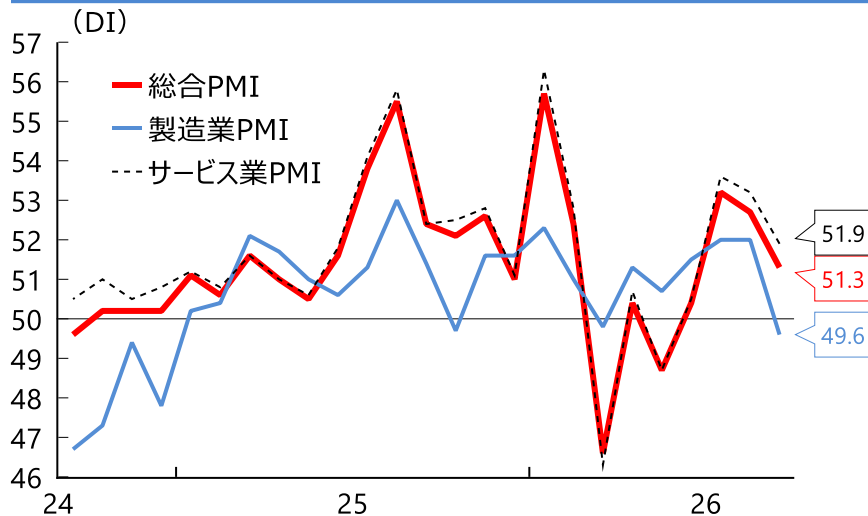
8月の家計支出は前期比+0.0%と、前月（同+1.1%）から横ばいで推移。

## ■ 輸出は増加に転じる

8月の輸出は前期比+3.7%と、前月（同▲3.6%）から増加に転じた。

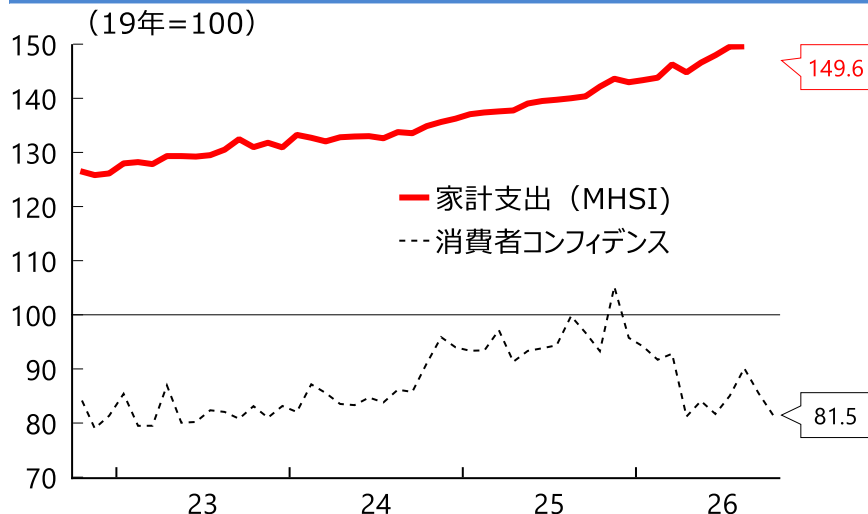
（出所） Macrobond、S&P Globalより第一ライフ資産運用経済研究所作成

### PMI



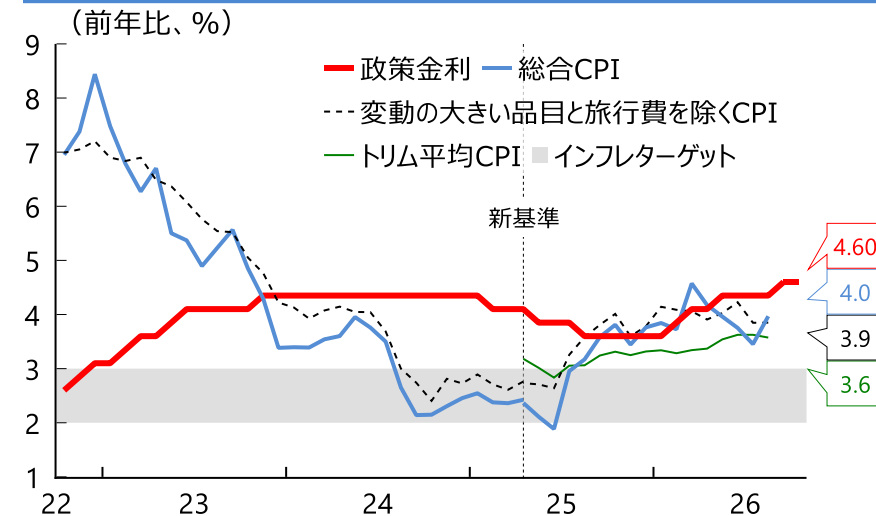
（注）直近は9月。

### 消費と住宅投資



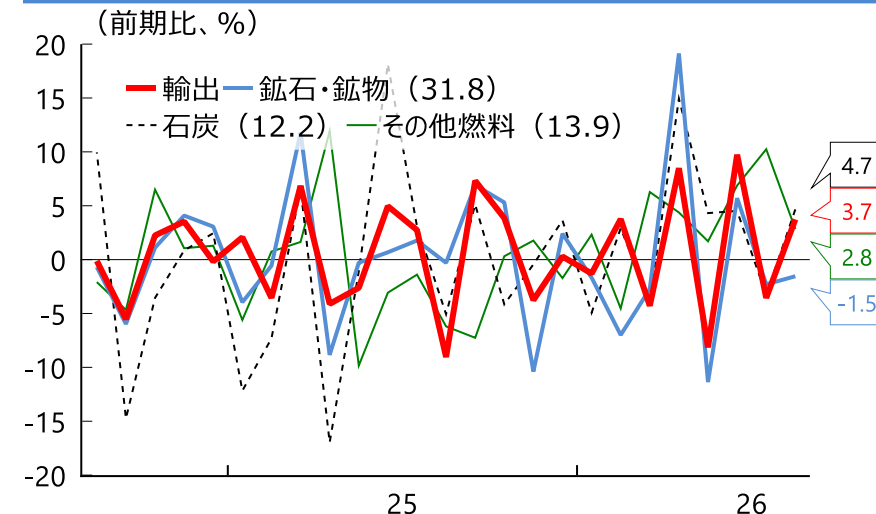
（注）直近は消費者コンフィデンスが10月、家計支出が8月。SA系列。

### インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が10/19日、その他が8月。25/4月以降は新基準の月次CPI前年比。

### 輸出



（注）直近は8月。SA系列。()内は25年輸出額に占める割合。



# ニュージーランド

## ■ PMIは引き続き拡大

9月の総合PMIは51.6と、前月（51.4）に続き拡大。製造業PMIは56.5と、前月（53.3）から拡大ペースが加速した。

## ■ RBNZはインフレ抑制の利上げ

4～6月期の総合CPIは前年比+4.1%と、前期（同+3.1%）から加速。中東情勢の悪化を受けて燃料価格が上昇し、総合CPIを押し上げた。

9月2日、RBNZは利上げを決定（+25bps、2.50%→2.75%）。利上げは市場予想通り。声明文では「インフレ率を目標の中間値である2%に戻しつつ、経済成長と雇用を維持するためには、金融緩和策を段階的に縮小することが適切である」とした。

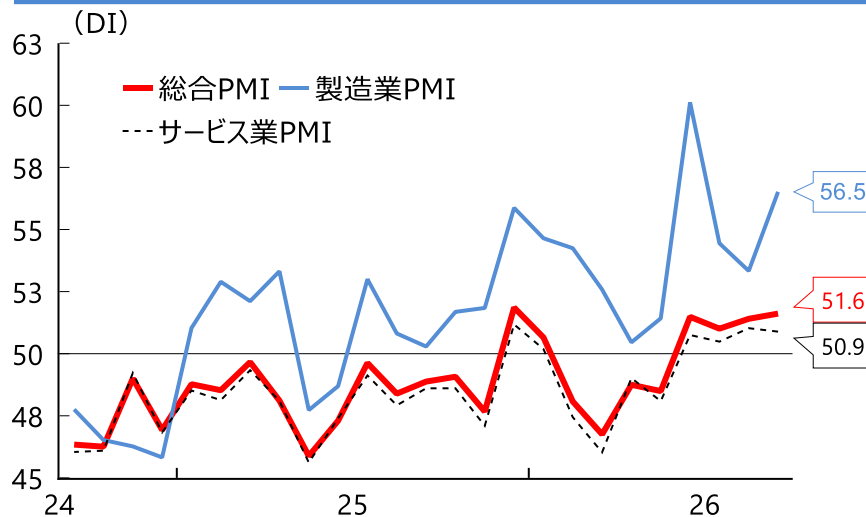
## ■ 消費は引き続き減少

4～6月の小売売上高は前期比▲0.5%と、前期（同+1.0%）から減少に転じた。9月のクレジットカード等取引は同▲0.5%と、前月（同▲0.5%）に引き続き減少。

## ■ 輸出は増加幅が縮小

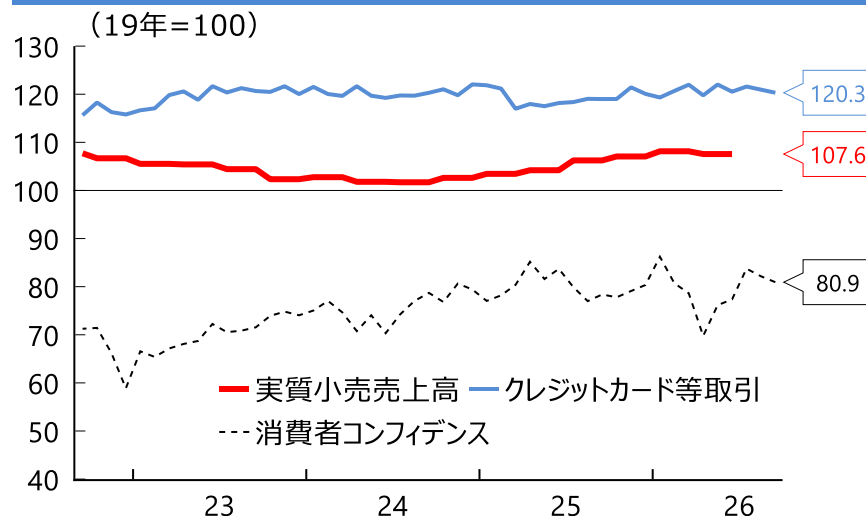
9月の輸出は前期比+0.6%と、前月（同+5.2%）から増加幅が縮小。

### PMI



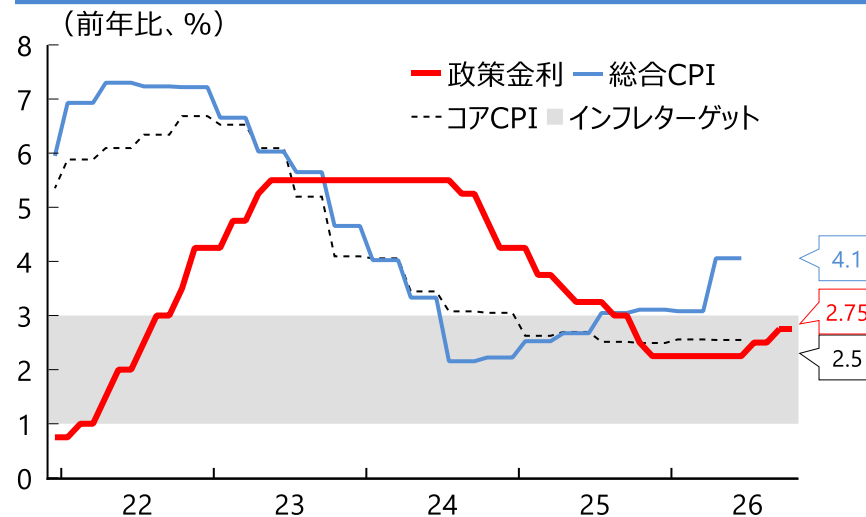
（注）直近は9月。

### 消費



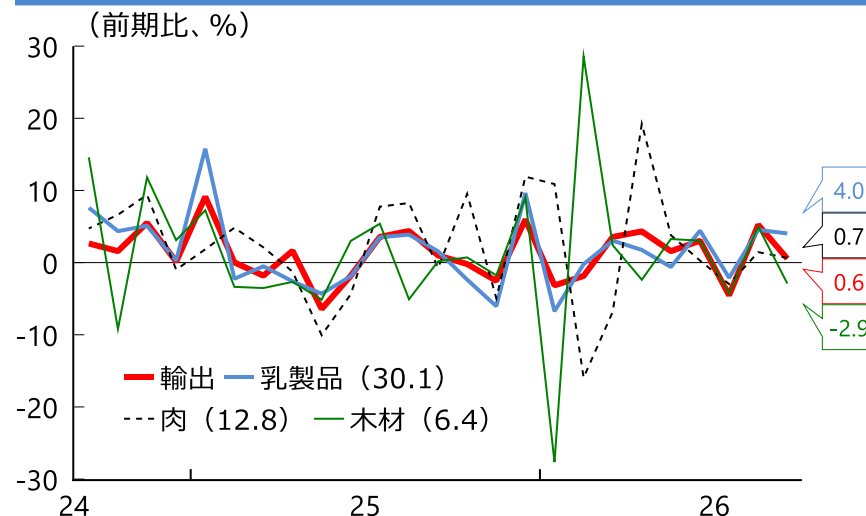
（注）直近は小売売上高が26/2Q、その他が9月。SA系列。

### インフレ率と政策金利



（注）直近は政策金利が10/19日、その他が26/2Q。

### 輸出



（注）直近は9月。SA系列。()内は25年輸出額に占める割合。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。